

令和 7 年度第 1 回小田原市卸売市場審議会水産部会 会議録

日 時：令和 7 年 11 月 13 日（木）午前 10 時 00 分から午前 11 時 00 分まで

場 所：小田原市公設水産地方卸売市場 2 階 水産海浜課会議室

出席者：別紙名簿のとおり

事務局：内田課長、内田係長、秋山主事、大竹主事

事務局である水産海浜課内田課長の進行により、第 1 回小田原市卸売市場審議会水産部会を開会し、引き続き、出席者及び事務局職員の紹介、配布資料の確認後、中川部会長により議題の審議が進められた。

【議題】

（１）会議の公開・非公開について

初めに、議題「（１）会議の公開・非公開について」審議が行われ、非公開とすべき事項がない旨確認が行われた。その結果本水産部会は、全て公開と決定され、中川部会長より傍聴者の確認を求められ、傍聴者がいないことを事務局員が報告した。

（２）水産市場再整備基本構想について

Ⅰ進捗状況について、Ⅱ今後の進め方について、一括して事務局説明の後、中川部会長の進行の下、審議が行われ次の事項が決定した。

- ・ 目指すべき姿及びコンセプト（方針）
- ・ サウンディング型市場調査の実施

※再整備後の市場施設の想定規模や将来像等の前提条件を提示しながら対話を行い、民間事業者の専門的な知見や技術に基づく創意工夫やアイデア等を収集することを目的とし実施すること。

- ・ 基本構想策定時期が令和 8 年度中へと遅れること

<各委員から主な質疑は次のとおり>

（神山委員）

魚屋が減る中で、目指すべき姿及びコンセプトにおいて、にぎわい創出を目指す方針が示されたことに賛同する。

（中川部会長）

近年、ICT を活用した市場等、新たな形の市場が各地でみられる。その点を踏まえ、小田原市の市場の見通しについて、卸売業者はどのように考えているか。

（神山委員）

本市の水産業においては、定置網をはじめとした漁業の漁獲力が他の地域に比べて強いと感じている。その強みを発揮できる市場の形を基本として、にぎわいを生み出していくことが望ましいと考える。ICT を活用した市場について部会長より話があったが、^{（株）}小田原魚市場においてもシステムを更新したため、今後

の市場運営に活かしていきたいと考えている。

(古川委員)

新しい市場となることで買いやすくなるのか、新規の買受人増加に繋がるのか、そのような点も踏まえた検討が必要。また、再整備をするとなれば、それに伴う関係者の負担が大幅に増加することを買受人側は危惧している。現在においても利益を生み出すことが難しい中で、負担を増やしてまで再整備をする必要があるのか疑問である。立ち止まって考えなおすことも必要なのではないか。

(中川部会長)

市場を再整備した場合、関係する業者が負担する固定費の増加は免れず、それらのことを踏まえて各業者は経営面の展望を考えなければならない。サウンディングに臨む際はその点も考慮すべきである。

(高橋委員)

建設費高騰が問題点として挙がっていたが、今後も高騰が続くと考ええると、より早く着手することが重要であると考え。また、建設費が高いことを理由に機能面を低下させてまで支出額を節約することは望ましくない。さらに、施設配置イメージでは漁船が6隻並んでいるが、一般的な漁船の大きさや船同士の取るべき間隔を考えると厳しいのではないか。

(富樫委員)

自治会としては、漁港を中心に地域が活性化することが望ましいと考える。また、消費者の立場としては、おいしい魚を安く食べることができればいいと考える。

(瀬戸委員)

新鮮でおいしい魚を食べることができるという点が本市の強みであると考えている。老朽化が進む市場の建て替え等が必要であることは理解できるが、再整備するのであれば中途半端にせず、必要なものには費用をかけ、必要でないものには費用をかけないようにすることが重要である。気候変動や災害に耐え、長く使用できる市場を作ってほしいと考える。

【報告事項】

(1) 卸売市場法の改正について

事務局から報告内容を説明。質問等は無かった。

以上